

目標設定

2022. 7. 22

本日より福島県中学校体育大会総合大会が開催される。中体連の県大会である。東北大会への切符をかけた戦いでもある。それぞれのチームや選手は、今まで目標をもって練習を積み重ねてきたにちがいない。

高校野球の世界で、「3年以内に甲子園に行く」と宣言する監督がいる。確か聖光学院高校の斎藤智也監督も3年以内に甲子園に行くという使命があったはずである。

私の場合は、顧問をしていたときに、県大会に出るのが最低限のノルマだと考えていた。男女を担当していたときには、男女アベック出場が目標となる。男女でハレの舞台である県大会に出場できるのはいいものである。

県大会出場を宣言していたわけではないが、生徒が自然と県大会を意識できるように練習試合を組むようにした。近隣の学校だけでなく、県内の強豪校に出かけるのである。保護者の協力も必要となる。徐々に保護者の態勢もできていく。

出場する大会も考えた。山形県や宮城県で開催される大会にも出させてもらった。県大会のことや他県のことを口で言っても伝わらない。その場所に連れていき、生徒がそのレベルや雰囲気を感じるのが一番である。その度ごとに意識は変わっていく。

県大会に出られるようになると、さらに上を目指し、東北大会出場を考えるようになる。これが一朝一夕にはいかない。県大会のベスト8までは、意識改革や練習方法の工夫、ミーティングなどの努力によりたどり着ける気がする。だが、そこから上は、努力以外の要素が必要となる。

まずは指導者がどこを見ているかが重要である。それによって目標設定は変わってくる。県大会、東北大会、全国大会と、それぞれ雰囲気が変わっていく。本番の大会は、それまでの各種大会とは明らかに違う。やはり場数を踏んでおくことは必要である。

今は、部活動の過渡期にある。以前とはだいぶ変わってきている。練習時間や休養日の設定などに合わせて、今まで以上に練習や活動内容に工夫を加えなければならない。目標設定もむずかしい。しかし、ねらいや目的が、人間形成、人間教育であることには変わりはないだろう。

県北大会や県大会のプログラムを見ると、過去の歴代入賞一覧がある。それを見ていると、懐かしくその当時のことが蘇ってくる。本日からの県大会では、ソフトテニス競技に役員の一員として参加する。目の前で熱戦が繰り広げられるだろう。

選手の思い、保護者の思い、そして何よりも指導者である顧問の先生の思いに寄り添いながら、試合を見るようにしたい。